

1 本年度の学校評価を振り返って

学校教育目標「夢をもち、心豊かで、たくましい子どもの育成」の達成に向け、「心・歌声・あいさつ」の3つの「響」を設定して、教育活動に取り組んできた。特に「確かな学力の向上を目指し、主体的に学び続ける子どもの育成」を研究テーマに設定し、「読む力」を育てる工夫を中心にして、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る指導と知識・技能の活用を通して思考力・判断力・表現力の育成を図る学び合いの充実に努めてきた。保護者によるアンケート結果では、概ね達成している状況ではあるものの、一層改善を図るべき課題も明確になった。具体的な提言については、今後の学校経営に生かしていきたい。

2 評価結果の概要

| 分野 | 評価項目 | 取組状況と成果・課題 | 評価 | 改善策 | 学校関係者評価の意見 |
|---------------------|-------------------------------|---|----|---|---|
| 教育課程・学習指導 | 基礎学力の向上を図る学習指導の充実 | 学習内容を理解し、進んで授業に取り組む児童がほとんどである。6年生は、中学校の教員から外国語と算数を指導してもらった。 | A | 今後も小規模校のよさを生かし、「分かる楽しさ」を実感できる授業づくりを継続する。 | ・個別の指導だけではなく、小集団の指導にも力を入れ、一人一人が分かる楽しさを実感できるようにしてきた。 ・中学校の先生方による英語と算数の指導はよい。今後も小中連携を進めていって欲しい。 |
| | 家庭学習の充実と習慣化 | 「家庭学習のすすめ」の配付や、家庭学習や宿題の指導・見取りを継続し、家庭学習は定着してきた。 | A | 家庭学習ノートの展示コーナー等を工夫し、保護者の協力を得ながら家庭学習の内容充実を図る。 | ・家庭学習は、漢字や計算だけでなく内容も多彩でノート指導が充実しており、学力の向上につながっている。 ・羽川剣ばやしや剣舞に意欲で取り組んでいる。伝承については下浜地区で考えていかなければいけない。 ・親子読書は、大変良いことなので今後も継続してほしい。 |
| | 地域の教育力や郷土のよさを子どもたちに伝える教育活動の充実 | ふるさと学習の取組を通して、ほとんどの児童が下浜地域のことを学習したり下浜地域の人と触れ合ったりするのは楽しいと回答している。 | A | 地域を素材とした教育活動をより充実させたい。今後も学校と地域の絆を深めていく。 | |
| | 豊かな心を育むための活動の推進 | 読書習慣が定着し、進んで読書をする児童がほとんどである。インソップ号の利用者が増えた。読み聞かせボランティアに保護者の協力も得ながら、本に親しむ機会を増やしてきた。 | A | 今後も、保護者との連携をさらに深めながら親子による読書活動を推進し、読書に親しむ子どもの育成に努め、読書の質を高める指導も充実させる。 | |
| 生徒指導 | いじめ防止の取組の充実 | 児童アンケートや個人面談を効果的に活用し、児童の変容の早期発見と早期対応に努め、未然防止について協議する場を設けている。 | A | いじめ防止対策委員会の内容や取組を知らせ、今後も全教職員でいじめの問題に取り組む。 | ・市民憲章や安全ネットワーク推進員によるあいさつ運動には充実していて成果を上げている。児童会活動としても取り組んでいるので継続して欲しい。 |
| | 楽しい学校生活 | 生活アンケートを年4回実施している。ほとんどの児童が「仲の良い友達がいる、学校で楽しく過ごしている」と回答している。 | A | 今後もアンケート調査と面談を活用し、児童一人一人の実態を把握し、指導と支援に努めていく。 | ・いじめ防止に関しては、アンケートや面談体制の充実など、早期発見や早期対応に心掛けている。 |
| | 挨拶・けじめのある生活 | 挨拶の状況や見本となる児童を集会等で紹介している。校内での挨拶はよくできているが、校外では、消極的になってしまうケースがある。 | B | 児童会活動で子どもの意識を高めることと、地域や家庭と協力しながらさらに良い方向に向かわせる。 | ・子どもの実態把握が的確で、問題解決だけでなく、健全育成の方向に進められている。 |
| 家庭・地域との連携 | 校報・学年通信・ホームページ等による情報提供の充実 | ホームページを定期的に更新し、校報や学年通信等を定期的に発行してきた。学校の行事や活動の様子を保護者や地域の方々に知らせることで、学校への関心や協力を高めてきた。 | A | メール配信システムを活用し、緊急連絡や注意喚起等の情報提供に努める。 | ・校報は、写真や子どもの声が掲載しており、子どもの日常の楽しい様子や頑張っている様子がよく分かる。 ・地域の人材や建物を活用し、下浜ならではの体験活動は、是非継続して欲しい。 |
| | 地域と連携した安全指導 | P T A生活安全部や下浜子ども安全ネットワーク活動推進員の方々のご協力をいただきながら、安全な登下校に努めてきた。 | B | 今後も、学校周辺地域や下浜中学校と連携しながら安全指導により一層力を入れていきたい。 | ・地域の情報を共有しながら、地域の様子や学校外の子どもの安全について十分に配慮したい。 |
| 夢をもち、たくましい心豊か子どもの育成 | 思いやりの心を育てる異年齢集団活動の充実 | 下浜小学校の特色である海の子班（全校縦割り班）での教育活動をたくさん取り入れた。異学年で掃除する海の子清掃では、上学年が下学年の手本となって活躍した。 | A | 今後も縦割り班による教育活動の機会を充実させ、一層豊かな集団生活が営まれる場にしていく。 | ・海の子班活動などの異学年交流は、友達とのマナーや礼儀、協力の仕方などを学ぶ貴重な機会なので、今後も活動を充実させてほしい。 |
| | 日常的な体力づくりの推進 | げんきっ子タイムでは晴天時は毎日グラウンドを走り、グラウンド周走カードに記録した。また、長縄大会やドッチボール大会では、全児童が楽しみながら体力づくりをすることができた。長期休業中の体力づくりカードも活用した。 | A | 学校行事や児童委員会活動との関連を図りながら、運動に親しむ場づくりに配慮する。 | ・元気っ子タイムの日常的な体力づくりは、地道に成果を上げている。継続して進めてほしい。 |
| | キャリア教育の実践 | ほとんどの児童が「夢や目標をもってがんばっている」と回答している。高学年は、ゲストティーチャーとしてプロの生き方に触れる学習を展開した。 | A | 児童の将来を見据え、活動を工夫しながら取り組み、家庭や地域にその取組を周知することに一層努める。 | |